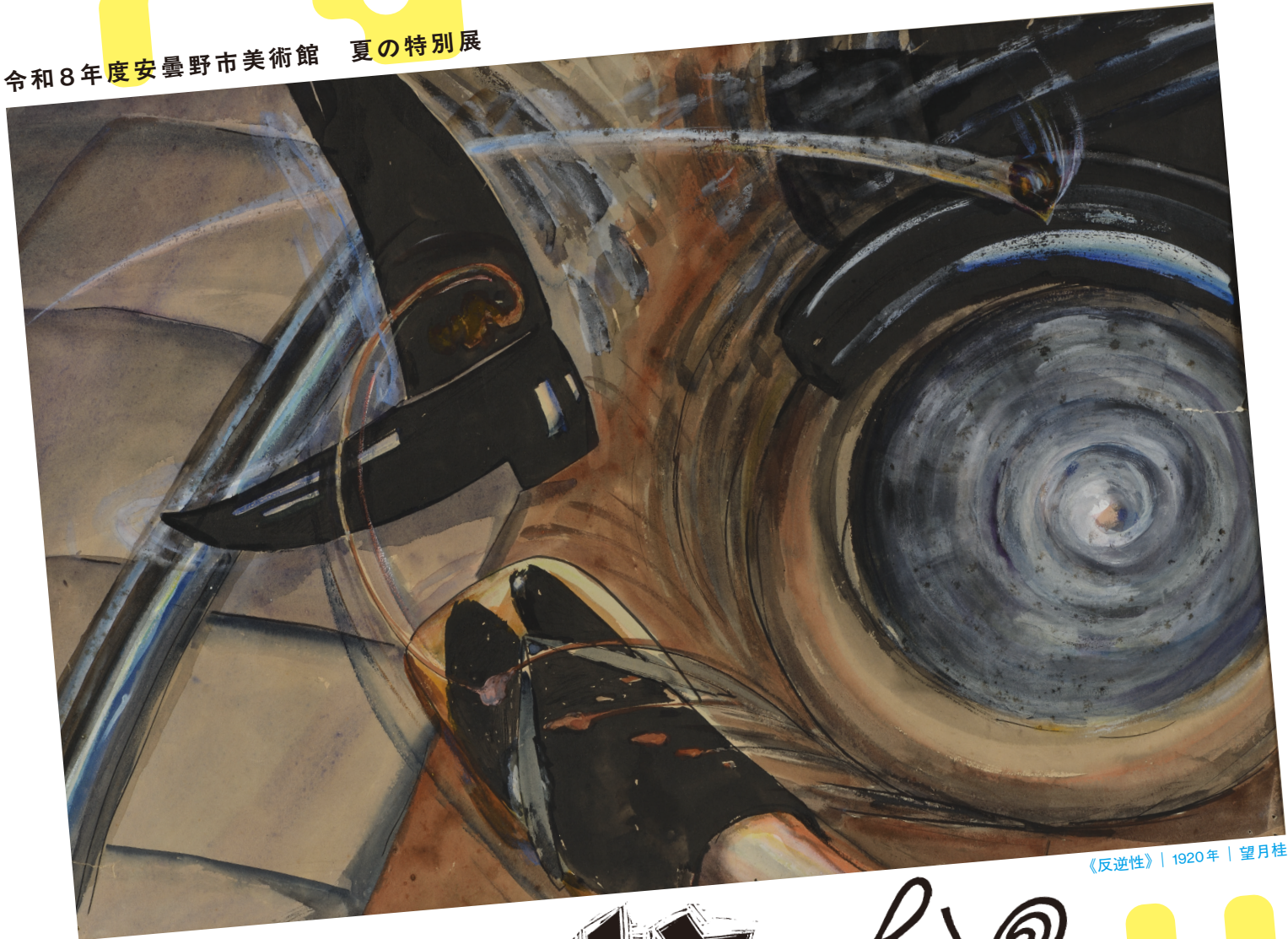


令和8年度安曇野市美術館 夏の特別展



《反逆性》 | 1920年 | 望月桂

自由を扶くは 望月桂

Mochizuki Katsura

2026 7.4 sat. - 8.30 sun.

[主催] 公益財団法人 安曇野文化財団
[共催] 安曇野市 安曇野市教育委員会
[後援] 市民タイムス NHK長野放送局

信濃毎日新聞社
あづみ野テレビ あづみ野エフエム
[企画・協力] 望月桂調査団 (代表・足立元)

安曇野市美術館

望月桂 自由を扶くひと

生涯をかけて自由を追い求めた望月桂(1886-1975)は、現代アートの源流にいる人物の1人です。

現在の長野県安曇野市に生まれた望月は、東京美術学校に学び、荻原守衛(碌山)らに影響を受けました。卒業後は普通の画家にならず、大正時代の東京で一膳飯屋「へちま」をひらきます。そこは誰もがアーティストになれる場でした。望月は斬新な未来派の技法で挑発的な絵を描き、「黒耀会」を組織して過激なアンデパンダン展を開催。美術のみならず演劇、音楽、漫画も展開しました。その鮮烈な軌跡は、アートの歴史を書き換え、文学史や社会運動史にも今までにない視覚的イメージを与えるものです。戦後は郷里で農地改革や女子校の美術教育に携わり、また新たな自由を追求しました。もともと、画壇で活動しなかったため、長らく美術史では知られないままでした。

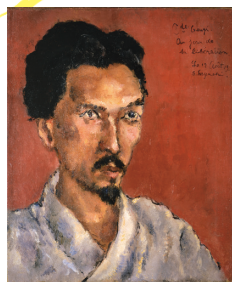
本展は、2025年に原爆の凶丸木美術館(埼玉県)で開催された同名展覧会の凱旋となります。近年ご遺族から安曇野市に寄託いただいた資料のうち、安曇野市美術館で絵画や文書を中心に約140点を、安曇野市文書館で紙資料を中心に一部を紹介し、碌山美術館で小企画を行います。思想弾圧、そして戦争。先の見えない時代を痛快に生き抜こうと奮闘した望月と仲間たちの精神は、驚きをもって、現代の私たちを取り巻く世界にも風穴を開けてくれるはずです。



《機械は大丈夫か》
1920年 | 望月桂



《製糸工場(女工)》
1920年 | 望月桂



《出獄の日のO氏》
1919年 | 林俊衛 | 長野県立美術館所蔵

1 アート、文学、社会運動の歴史を書き換える作品資料

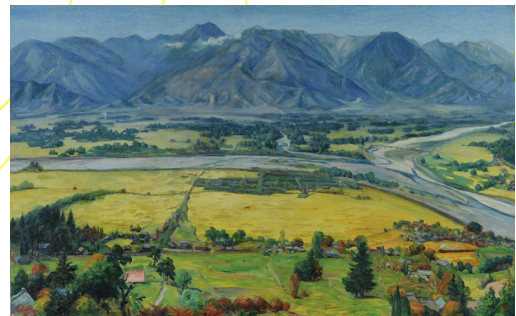
望月の作品は、爆発や回転が描かれたダイナミックな絵ばかりではありません。今日目で見れば、「へちま」の経営のような、生活と芸術と革命を一つにする活動もまた、彼の作品として捉えられるでしょう。さらに、アナキスト大杉栄によるヘタウマな自画像、小説家有島武郎と望月の合作、画家藤田嗣治も参加した漫画雑誌『バクショー』など、ユーモアと情熱に満ちた作品資料が並びます。

2 コレクティブ(集団)によるコレクティブの発掘

本展は、美術館学芸員、安曇野地域の関係者、美術・文学・社会運動などの研究者、アーキビスト、ジャーナリスト、編集者、アーティスト、デザイナーらからなるコレクティブ「望月桂調査団」(2022年~)による発掘の成果です。望月の思想と活動を理解するにあたり、会場には、出品作の解説、ロゴ・タイトル(風間サチコ)、展示デザイン(卯城竜太)、映像(松田修)など多くの補助線が引かれています。

3 安曇野ならではの展示内容

安曇野で新たに加わる重要な作品の一つは、林俊衛《出獄の日のO氏》(長野県立美術館蔵)です。昨年の展示では並べきれなかった資料も幅広く紹介します。今回は、望月も一時勤めたことがある平凡社から図録を刊行し、限定グッズも用意します。何より、安曇野で彼の作品資料に出会うことで、大きな山並みの美しさとそれを乗り越えたいと願う意志について、実感を持って見えてくることでしょう。



《稔りの秋》| 1940年 | 望月桂



《ある日の大杉》
1920年 | 望月桂

関連企画

安曇野市文書館「望月桂 自由を扶くひと 一犀川凡太郎の人生漫歩」
5月10日(土)~8月30日(日)

碌山美術館「荻原守衛と望月桂」
7月4日(土)~8月30日(日)

安曇野市美術館

〒399-8205 長野県安曇野市豊科5609-3
TEL 0263-73-5638 FAX 0263-73-6320
http://www.azumino-museum.com/



展覧会サイト



- 美術館へのアクセス JR大糸線 豊科駅より徒歩約10分 / JR篠ノ井線 田沢駅よりタクシーで約10分 / 長野自動車道 安曇野ICより車で約5分
- 無料駐車場 美術館正面 / 約100台

イベント

- 参加費無料(要当日入館券) ●申込み不要 ●定員100名程度(先着)

「帰ってきた望月桂」

7月11日(土) 13:00~16:00

シンポジウム

- 1部
- 足立元(二松学舎大学) 植草学(信濃毎日新聞社)
 - 大島浩(長野県立 旧山辺中学校校舎) 岡村幸宣(原爆の凶丸木美術館)
 - 金井直(信州大学) 塩原理絵子(安曇野市教育委員会) 武井敏(碌山美術館)

- 2部
- 卯城竜太(アーティスト) 風間サチコ(アーティスト)
 - 松田修(アーティスト) ほか

「岐路に立つアナキスト・モダニズム」

8月1日(土) 14:00~15:30

トーク

講師: アラン・アントリフ(カナダ・ビクトリア大学、美術批評家) ※逐次通訳あり

●他にもギャラリートーク、イベントなどを開催。詳しくは展覧会サイトをご覧ください

- 開館: 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで) 7/11(土)、8/11(土)は午後8時まで(入館は午後7時30分まで) ●休館: 月曜日(7/20は開館)、7/21(日)
- 入館料: 一般520円、大学生・高校生310円、団体(20名以上): 一般410円、大学生・高校生200円 ※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名は無料